

DVの影響を受けた母子たちへの支援事業

尾道母子生活支援センター エスポワール
〒722-0042 広島県尾道市久保町 1733 番地

助成事業の概要

一昨年、女性ネットSaya-Saya さんのご指導の上で、びーらぶインストラクター養成講座に参加し、資格を取得した 12 人のインストラクターが DV の影響を受けた母子たちへの支援事業として、昨年 6 月から今年 3 月まで、「びーらぶプログラム」を開催しました。

第 1 回から 12 回まで、同じ時間に同じ場所で母親プログラム、子どもプログラムを 2 部屋に分かれて実施して行きました。参加者は定員いっぱいの 8 組で行われました。

第 1 回プログラム全体の確認、顔合わせをし、第 2 回では安心、安全な場所を確認しました。第 3 回で人権を学び、第 4 回で怒りと暴力の違い、怒りを暴力以外の方法で伝える。第 5 回は境界線を知り、安全計画を立てる。第 6 回は暴力を用いない葛藤解決の方法を学びます。第 7 回は安全、安心を感じる。第 8 回は自分の感情を表現する練習。他人と違っていいことを学びました。第 9 回は自分の思い込みに気づき家族幻想からの脱却をはかり、第 10 回は対等な話し合いのスキルを学びました。第 11 回になると、自尊心の回復を目指し、肯定的メッセージを沢山つくります。第 12 回に、一人ひとりをアセスメントし、つながりを感じフォローアップをしました。母親は、話し合いや、コラージュ、瞑想など、子ども達はゲームや遊びの中で学んで行きました。

当施設の母子は 6 組、外部参加者は 2 組でした。

事業の成果

はじめはインストラクターも参加者も緊張ぎみでしたが、回を重ねるうちにほぐれてきました。何かを教えられる場でなく、皆と話を進めていく中で気づいて変わっていく姿を見ていくことができました。表情の硬かった人もやがて笑顔が見られ、意見を言う場面で「パス」だった人が少しずつ意見を言えるようになっていきました。

施設入居中の人が 6 人だったので、それ以外の人 2 人が疎外感を感じるのではと危惧していましたが、面会交流の辛さなどを分かち合う中で連帯感を持てたように感じました。第 1 回から 4 回までは重い課題も多く、相互の警戒感や疎外感など配慮が必要でしたが、後半になるにつれて、この場の安心感、大切にされているという本人の価値観、肯定感を身体で感じていただき、第 11 回には「仲間」としての繋がりを感じたこと、涙ながらに発言してくれた人が複数いたことも嬉しいことでした。

子どものプログラムでは初回からしばらくは、緊張や義務感のようなものを抱えて参加している様子が伺えました。小学 5 年から中学 1 年という年齢からか、面倒臭さやだるさを前面に出したり、投げ掛けには下を向いたり発言しないことが多くみられるので、インストラクター側としては子どもたちにどれだけのことが届いているのだろうかという不安もありました。子どもたちは自分たちのために参加するというより、どちらかと言えばインストラクターの本気に付き合うための時間だったかもしれませんが、11 回が終わる

頃には、自分の気持ちを誤魔化さず、嫌な自分も苦しい気持ちも自分自身で認めることができるようになり、頑張った自分を褒めることもできるようになりました。自分自身のメッセージには、未来・自由・安心・仲良く・楽しい・元気・大切・地球上の一人などの言葉を織り込んで、自分の気持ちを綴っていました。

また、これから先の皆のしたいこと、なりたいもの、欲しいものを読み上げて共有した時の賑やかさからは、子どもたちの強さも感じることができました。DV 被害を受けてきた母子の為、写真は掲載できませんが、びーらぶ報告会での写真を送付させていただきました。

成果の広報、公表

2018年4月14.15日に「女性ネット saya-saya」のインストラクタースキルアップ講座において、各地の「びーらぶ報告会」において情報交換を行いました。広島では初回のプログラムだったので、少々恐縮していましたがびーらぶ広島としての工夫を提供することも多く、自信に繋がりました。

昨年、広島県母子生活支援施設協議会にて、「びーらぶプログラム紹介講座」をさせていただきましたが、今後は報告と共に発表ができればと考えています。また、インストラクターの活動拠点である、福山市、尾道市の行政にも働きかけをして、今現在、DV 被害に苦しんでトラウマと戦っている方が、少しでも楽な気持ちで生活を送ることができたらと考えています。

今後の展開

インストラクター自身が就労しながらの、休日を利用してのプログラムであった為、1年間のプログラムに課題を残しました。インストラクター

が皆それぞれ忙しいなかで、どう継続していくかが課題です。

エスポワールとしての実施に向けては、学校や地域での問題として高学年より、低学年のトラブルが大きくなっています。また、DV 入所に限らず、知的や情緒的障がいの母子も増えてきていることから、DV 限定ではない地域版のプログラムを、お願いしたい旨は有ります。

今年度には、DV 限定で無い地域版低学年プログラムか、DV 限定の低学年ショートプログラムを企画して、来年度再び低学年か、未就学児のスタンダードプログラムが実施できたらと考えています。

また、エスポワールのみでなく、広島県や、各市町村の委託事業として展開できるように、インストラクターの確保と県内への周知を積極的に行っていく必要があると思います。